

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム No.10 森林入門！ No.18 木工クラフト体験

学校名	高知市立横浜小学校
学年・生徒数	5年生 60名（2クラスと特別支援クラス）
実施場所	高知市立横浜小学校 体育館横の敷地及び学校林
目標	森の働きや木の性質にふれ、自分たちにできる環境活動を考える
関連教科	5年生 社会 森林とともに生きる
講師	平子真治（木育インストラクター）、矢島英輝（佐川町地域おこし協力隊） 難波久美江（宿毛市地域おこし協力隊）
準備物	学校：ブルーシート、長机、軍手、新聞紙 講師：木のペンダントづくり材料、紙やすり、丸太、ノコギリ、 ブルーシート、チェーンソー等

実施項目	木のペンダントづくり・丸太ノコ切り体験
対象プログラム	No.10 森林入門！ No.18 木工クラフト体験
所要時間	約2時間
実施内容	1. 自己紹介 2. 森林についての話 3. 体験（木のペンダントづくりと丸太ノコ切り体験 各45分） 4. 支障木伐採のデモンストレーション 5. 振り返り

実施風景



左から  
講師の平子さん（チャーリー）  
矢島さん（ヤーさん）  
難波さん（キューちゃん）

木のペンダントづくりは木のかけらを紙やすりで磨いて作ります。  
選んだ木のかけらを触る、匂う、見る等、観察しました。



そして、4種類の紙やすりを使って、変化する木のようにすを感じながら仕上げました。自分で「これでいい!」と思ったら仕上がりです!

磨いたペンダントを太陽の光にかざすと、ぴかぴか光っていました。



丸太ノコ切り体験では、一人ひとりノコギリで丸太を切る体験をしました。硬い丸太をノコギリで切るのは根気のいる大変な作業でしたが、みんなで応援していました。切り終えた児童は、輪切りにした丸太の年輪や太陽の光にかざした時の色の変化等を観察していました。



プログラムの最後は学校林にある支障木の伐採デモンストレーションです。林業の装備で現れた講師のヤーさんとキューちゃんがチェーンソーで大きな音を立てて木を切り倒す様子を見学しました。



講師の平子さんから、「ヤーさんとキューちゃんは林業という木を伐る仕事をしています。山を守り、木を伐ってみんなの暮らしの中で使ってもらうために、この仕事を続けています。こういった仕事をしている人がいることを覚えておいてほしいです。今日みんなが触れた木と森の木は全く別のものではなく、学校林の木からペンダントを作ることでもあります。木がどのように私たちの暮らしや身のまわりとつながっているかを考える機会にしてほしいです。この素敵な学校林をみんなでどう活かしていくかを考え、今後いろんな活動をする時はまた呼んでほしいし、お手伝いをしたいと思います。」と伝えて授業を終了しました。

#### 児童の感想

- ・ペンダントづくりは磨くとツルツルになって気持ちよかった。
- ・ペンダントは、最初どうしたらお手本みたいにツルツルになるんだろうと思ったけど、ヤスリを4つ使うとツヤツヤになってびっくりした。
- ・木は立っているだけでなく私たちの生活に役立つと知れた。
- ・友だちの応援があったので切れやすかった。
- ・木がこんなにきれいになると思わなかった。次はものすごくきれいに磨きたい。
- ・切った丸太はいい匂いがした。木ってこんな匂いがするんだと思った。
- ・丸太切りは大変できつかったので、こんな仕事をしている人はすごいと思った。
- ・丸太切りはすごく疲れるし根気がいるけど、切れた時は達成感があって楽しかった。切った木を太陽に照らしてみるとオレンジ色になってきれいだった。
- ・木を切る様子を見て、そんな仕事もしてみたいと思った。
- ・学校林を守っていきたいと思ったし、木は腐ると知ってびっくりした。
- ・森は私たちの生活にとっても大事なものということを学んだ。できることを探して自分から活動するのも大切なことと今回の体験で思った。

#### 先生の感想

体験活動をした後、社会科の授業で森の働きや山を守るために働く人々について学習をしました。山で働く人々での学習では、伐採の様子を見せてもらったため、何の目的で行われるのかが授業でもスムーズにつながりました。また、参観日には平子真治さんと一緒に作ったペンダントを見ながら、年輪について話をしました。年輪の幅の違いによって育った環境が違うことを話すと自分のペンダントをじっくり見たり、のこぎりを使い自分で切った木を見たりしながら木が育ってきた環境について想像することができました。

#### 補足

その他、プログラムの特徴

5年生の社会で森林の働きや林業について学習する前の体験学習として、木のペンダントづくりと丸太のノコ切り体験を行った。今回の学習は、教科で学ぶ森林学習とのつながりを意識させることをねらいとした。

横浜小学校には学校と隣接して学校林があるが、現在は清掃活動以外で活用されていない。プログラムの最後に、学校林の支障木の伐採見学を行い、森の働きや森と人との関わりを学んだ後、学校林を今後どう活用していくかを主体的に考える導入とした。